

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：私立学校振興費

事業名 就学支援金等事務自動化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 私学振興課 私学助成係

電話番号：058-272-1111 (内3033)

E-mail：c11151@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 990 千円 (前年度予算額： 990 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	990	0	0	0	0	0	0	0	990
要求額	990	0	0	0	0	0	0	0	990
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

高等学校等就学支援金においてマイナンバーを利用した審査が導入されたことに伴い、毎年大量の定型作業が生じ、審査に時間を要することとなった。

職員を増やすことは困難である状況の中で、事務自動化ソフトウェアロボット(RPA)の導入により業務の効率化を図ることで、審査を迅速に行い、早期に就学支援金の支給を可能にするとともに、「単純作業」、「定型作業」から「付加価値の高い作業」へのシフトとともに、長時間労働抑制等による働き方改革の推進を実行していく。

また高等学校等奨学給付金において、マイナンバーを利用した審査が導入されたことに伴い、審査に時間を要するためRPAを導入し審査の迅速化を図る。

(2) 事業内容

・就学支援金等事務自動化事業 990千円

就学支援金等の審査において実施しているマイナンバーパソコン上の定型的な業務に、事務自動化ソフトウェアロボット(RPA)を導入することにより、単純業務の自動化を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方
県10/10

(4) 類似事業の有無
なし

事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	990	事務自動化ソフトウェア シナリオ作成業務委託
合計	990	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 後年度の財政負担
毎年発生

(2) 事業主体及びその妥当性
私学振興課の事務効率化に資する経費であり、県が実施すべきもの

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

（事業目標）

・業務量は増加するものの、職員を増やすことは困難である状況の中で、「単純作業」、「定型作業」から「付加価値の高い作業」へのシフトを目指すとともに、事務事業の効率化、長時間労働の抑制等働き方改革を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

実証段階であるため、指標設定がなじまないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	事務自動化ソフトウェアロボット(RPA)の導入により業務の効率化を図ることで、審査を迅速に行い、早期に就学支援金の支給を可能にすることが期待できる。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	審査の迅速化、早期に就学支援金の支給を可能にするとともに、「単純作業」、「定型作業」から「付加価値の高い作業」へのシフトを実施した。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和5年度	審査の迅速化、早期に就学支援金の支給を可能にするとともに、「単純作業」、「定型作業」から「付加価値の高い作業」へのシフトを実施した。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	審査の迅速化、早期に就学支援金の支給を可能にするとともに、「単純作業」、「定型作業」から「付加価値の高い作業」へのシフトを実施した。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 2	働き方改革、業務効率化のツールとして引き続き必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2:期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1:期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0:ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	一定の業務時間削減効果が見込まれる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価) 1	効率化のための事業である。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 RPAは、制度改正等に合わせて、随時プログラム修正が必要不可欠である。審査結果の正確性を担保するために、人的審査を併用して審査する体制の維持が必要。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続きRPAを活用することで、業務効率化を進める。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	